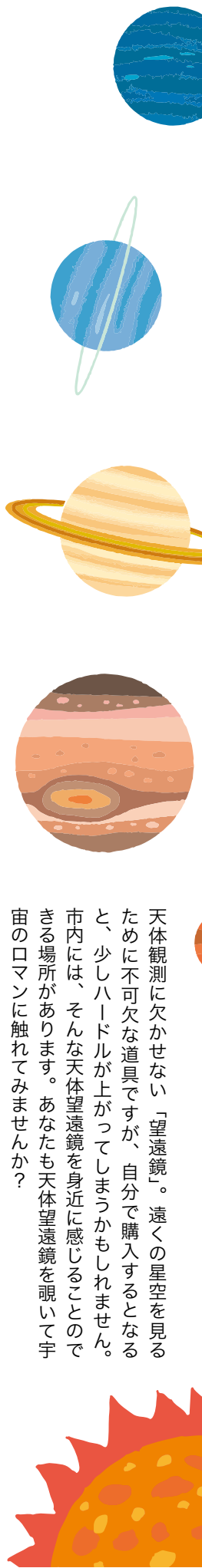


穎明館 中学高等学校 天文部



天体観測に欠かせない「望遠鏡」。遠くの星空を見るために不可欠な道具ですが、自分で購入するとなると、少しハードルが上がってしまうかもしれません。市内には、そんな天体望遠鏡を身近に感じることのできる場所があります。あなたも天体望遠鏡を覗いて宇宙のロマンに触れてみませんか？

館町の穎明館中学高等学校には、市内でも珍しい天文ドームがあります。このドーム内の望遠鏡を使って天体観測をしているのが天文部のみなさんです。週2回の放課後での活動のほか、各学期に1回は夜9時まで天文ドームを使用した星空観測をしています。

先輩として指導する立場の上級生は3人しかおらず、伝えなければならぬことが山積しているとのこと。

ムの準備に明け暮れたりしてあります。文化祭で出展するプラネタリウムは、直径2mほどの段ボール製の半球ドームで、すべて手作り。作成のための型紙が代々引き継がれ、それを元にくりぬいた段ボール片をガムテープでつないで作りま

穎明館では昨年からJAXAの宇宙教育センターとも提携して、コスミックカレッジ制度を使った宇宙教育にも参加しています。JAXAの宇宙教材を使用して、宇宙を身近に感じた教育実践も展開しています。

いままで数人単位の小さな部活でしたが、ここ1、2年は天文ブームの影響か入部希望者が急増し、今年は一気に40人と大所帯に。とはいえ、

比較的周囲の明かりが少ない学校周辺は天体観測にもってこいの場所なのですが、夏場は下校時間まで外が明るい

文化祭ではプラネタリウムの企画と合わせて、一般の方にも天文ドームを開放していただきます。昼間なので星を見る

そんな学校の中で、「星が好き」という気持ちで集まった天文部の生徒たち。彼らなりの視点で、学内のみならず、学外の方にも星空を見る楽しさを伝えていきます。



▶13等星まで観測できるレンズ口径20cm屈折式天体望遠鏡（野崎遼平さん提供）

しさを共有するよう努めています。比較的近所の明かりが少ない学校周辺は天体観測にもってこいの場所なのですが、夏場は下校時間まで外が明るい

文化祭ではプラネタリウムの企画と合わせて、一般の方にも天文ドームを開放していただきます。昼間なので星を見る



▶前部長の野崎遼平さん（左）と現部長の齋藤穂乃実さん（右）

株式会社清水工房創業55周年記念

開催報告!!

ようらんしゃ 揺籃社出版即売会

2024年 7月20日(土) 11:00～15:00

去る7月20日(土)、東京たま未来メッセにて「揺籃社出版即売会」を開催しました。周年行事として当社の本を並べる見本市は何度か開催してきましたが、著者を呼んで直接、本を販売していただくイベントは今回が初めて。どうなるかと気をもみましたが、約200名の来場者が集まりました。ご来場いただいた皆さん、ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



来場者の声

- ・大変勉強熱心、研究熱心な方ばかりで脱帽です
- ・御社が地域文化の向上に寄与されていることが分かりました
- ・著者の方とお話できる、とてもよい企画で楽しめました
- ・昔の写真パネルがよかったです

出展者の声

- ・知らない人にお金を払って買っていただいたことが一番うれしい体験でした
- ・未知の方や近くの方々のブースの方々とたくさんお話できました
- ・ずいぶん懐かしい人に会えました
- ・今後の新たなお付き合いのきっかけとなりました

甲州道中八王子宿の十八大井戸

慶応元年（1865）6月18日、ドイツ人の考古学者シュリーマンは八王子を屈指して、イギリス人6名と横浜を出発した。賃馬屋から馬をかりて、下帯だけの馬丁7人を雇っての道中であつた。

原町田（町田市）に1泊し、翌日の6月19日午前10時30分に原町田を発つた。雨の中ずぶ濡れとなつて、午後1時近くに八王子に着く。まちの通りを描写しているが、珍しかったのが井戸について次のように細かく書いている。「たいていの家に絹の手織機があり、絹織物の店を出している。道幅二十六メートル、約一・六キロメートル近くもつづく大通りに沿つて、ところどころに車井戸がある。滑車には一本の綱がかかけられ、両端に桶がくりつけられている。一方の綱をたぐりよせると、満林になった桶が上がつてくる間に、もう一方の桶に水が満たされるというわけである」（1998）『シュリーマン旅行記 清国・日本』講談社学術文庫。

この井戸は、『八王子名勝志1』（2014、八王子市郷土資料館編）の挿図にある。中村屋の向かいの、通りの中央に水路があつて、水路のすぐ南側に車井戸が描かれている。これをシュリーマンは見たのだ。

江戸時代の終わりころから昭和5年（1930）の春まで、八王子の街の中心部の甲州街道に、「十八大井戸」という18か所の井戸があつた。いわゆる市電の軌道敷設と舗装のために、3、4か所を残して道路の下に隠れてしまった。はじめは飲料水として使用したが、後には市が開かれた日に、商人や牛馬の飲用専用に使われた。また、初めから防火用水として掘られたものともいう。（1932）『郷土教育資料』226頁

十八井戸が昭和5年の春まで3、4か所あつたと断言しているのは、『郷土教育資料』が昭和7年発行だからである。

戦国時代末の横山村の原野に、八王子城の城下から宿を移して新八王子を建設した。飲用の水も防火の水の課題も、近代の水道が敷設されるまで存在した。

桑都・八王子の暮らしを迎える風物の一つとして、甲州街道の水路や井戸を学術的に発掘し、昭和5年の廃止から100年後の2003年くらいまでに復活できないものだろうか。



『八王子名勝志』（国立国会図書館蔵）より

八王子自然探訪 10

八王子・日野カワセミ会 会長 粕谷 和夫

自然探訪と関連する身近な天体現象

今号の特集は「八王子で天体観測」なので、ここでは自然探訪と関連する身近な天体現象を取り上げてみたい。

夏は日が長く、冬は日が短い。これは太陽と地球が織りなす天体現象である。1年で1番日が短いのは冬至（12月21日）ころなので、「日没が最も早い日」も冬至と思いがちだが、実際は冬至の半月前の12月上旬。午後4時ころには暗くなつてしまふこの時期に、懐中電灯を持たずに高尾山に登つて、暗い山道を恐る恐る下つたことが思い出される。冬至の日といえば高尾山山頂から見る富士山の山頂に沈むダイヤモンド富士が有名だ。

最も身近な天体現象といえば月の満ち欠けである。日本では月の満ち欠けを基準にした旧暦を明治5年（1872）まで使っていた。新月が1日で、満月が15日。新月と満月では夜の明るさが異なるので、夜に自然観察会を行うときは、その日が旧暦の何日にあたるかを調べておくことが大切である。旧暦の8月15日、中秋の名月には、この名月を眺めてお団子を食べる風習が昔からあつた。昨年（2023年）の中秋の名月は新暦の9月29日。一升瓶に河原から取ってきたススキの穂をさし、だんごを買つてきて、栗の代わりに山から拾ってきたトチの実を供えた。

宇宙に星がいくつあるか、正確には分かつていない。視力が良い人は夜空に5000個ほどの星を見ることができるといわれている。星の並びを、意味のある形にたとえたものが星座である。現在、公式に定義されている星座の数は88で、季節や方角によって見える星座が異なる。冬の夜空を飾るオリオン座などは特に有名だ。



▲中秋の名月の日に

星座は想像上のもので、一般の人が探すことは困難である。そこで役立つのが季節ごとの目印だ。たとえば、春は「春の大曲線」を想像して、春の星座を見つかる。まず北の空に「北斗七星」を探す。「北斗七星」はおおぐま座の腰と尻尾に当たる一部。その尻尾のカーブをそのまま伸ばしていくとオレンジ色をした、うしかい座のアルクトゥールスがあり、またそのカーブを伸ばしていくと白色をした、おとめ座のスピカがある。このカーブが「大曲線」で、誰でもすぐに確認できる。しかし、今の八王子では夜空が明るすぎて「大曲線」の発見が困難になってしまつている。広い八王子市内の数か所を周って調べてみたら、恩方地域の街灯の影響が少ない所で「大曲線」をクリアに確認することができた。

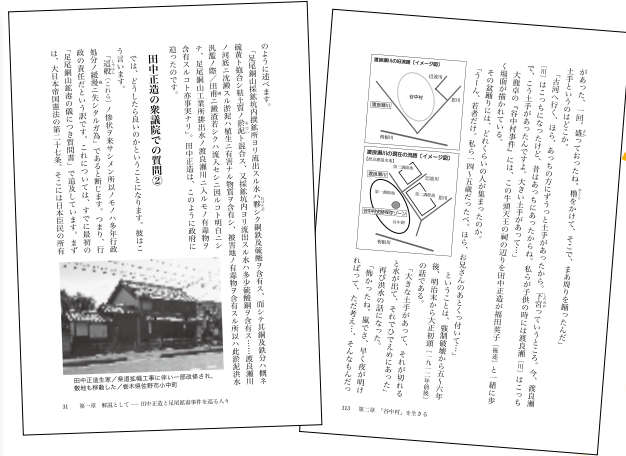
私の本はこうして生まれた 其の五十八

『足尾鉍毒事件 一人ひとりの谷中村』 永瀬一哉 著

「谷中村」と聞いて何を思い浮かべますか。「広島」と聞けば原爆が、「水俣」と聞けば水俣病が、「福島」と聞けば原発事故が想起されるように、「谷中村」は足尾銅山鉍毒事件に結び付くのではないのでしょうか。本書は「谷中村」にさまざまな形で関わった方々の、大変に貴重な証言を核としています。歴史の反省もなく、現代でも繰り返される公害事件。その端緒である足尾鉍毒事件を庶民の証言から紐解いた本書は、いままさに読まれるべき1冊といえます。

もう30年以上前のことなる。私は田中正造の生まれ故郷、栃木県佐野市を拠点にして全国に田中正造と足尾鉍毒事件について発信を続ける市民団体「田中正造大学」(2022年解散)の坂原辰男事務局長の案内で、谷中村残留民の関口コト氏(当時9歳)と島田清氏(当時0歳)を訪ね、インタビューをした。

足尾銅山から排出される鉍毒によって渡良瀬川沿岸の村々では甚大な被害が生じた。また繰り返される渡良瀬川の洪水によって、その被害は拡大した。その対策として、政府は渡良瀬川が利根川と合流する一帯に巨大な遊水地(貯水池)を作る計画を立てた。このため水没させられることになったのが谷中村であった。だが、16戸の農民が抵抗し、村に残留した。これに対して政府は最後には家屋を一軒ずつ破壊した。この時、関口さんと島田さんは目前で自宅を壊された。ただし、島田さんは幼児で、何も覚えていない。私の訪問時、関口さんは、この強制破壊を語る最後の生き証人となっていた。その後、私はさらに関係者のインタビューを続けた。谷中村最後の村長(大野東一)の子息や、当時谷中村が属した下都賀郡郡長(安生順四郎)の係累、はたまた、田中正造と共に強制破壊に立ち合っ、官憲の横暴に抵抗したジャーナリスト(菊地茂)の息女などである。また、強制破壊の責任者であった栃木県警察のトップ(植松金章)の人生については諸資料を通して追い求めた。本書は以上六人の物語である。整理して言うと、①「谷中村の廃村に抵抗した残留民」(関口、島田)、②「谷中村の廃村を推進した村長と郡長」(大野、安生)、③「谷中村の強制破壊時に対峙した警察の責任者と抗議するジャーナリスト」(植松、菊地)となる。本書は、これらの証言をベースに足尾鉍毒事件や谷中村廃村などについて考察したものである。インタビューして早30年が経過したが、この貴重な証言を、このまま我が書齋で眠らせたままにする訳には行かぬと考え、本書を刊行した。一度手に取って下されば幸いに存じます。(著者記)



足尾鉍毒事件 一人ひとりの谷中村

永瀬一哉 NAGASE Kazuya

谷中村の残留民
谷中村を追い詰めた村長と郡長
谷中村で睨み合った支援者と執行官
— 本人や係累の声を聞く —

編集社

足尾銅山から排出される鉍毒によって渡良瀬川沿岸の村々では甚大な被害が生じた。また繰り返される渡良瀬川の洪水

水によって、その被害は拡大した。その対策として、政府は渡良瀬川が利根川と合流する一帯に巨大な遊水地(貯水池)を作る計画を立てた。このため水没させられることになったのが谷中村であった。

だが、16戸の農民が抵抗し、村に残留した。これに対して政府は最後には家屋を一軒ずつ破壊した。この時、関口さんと島田さんは目前で自宅を壊された。ただし、島田さんは幼児で、何も覚えていない。私の訪問時、関口さんは、この強制破壊を語る最後の生き証人となっていた。

その後、私はさらに関係者のインタビューを続けた。谷中村最後の村長(大野東一)の子息や、当時谷中村が属した下都賀郡郡長(安生順四郎)の係累、はたまた、田中正造と共に強制破壊に立ち合っ、官憲の横暴に抵抗したジャーナリスト(菊地茂)の息女などである。また、強制破壊の責任者であった栃木県警察のトップ(植松金章)の人生については諸資料を通して追い求めた。本書は以上六人の物語である。整理して言うと、①「谷中村の廃村に抵抗した残留民」(関口、島田)、②「谷中村の廃村を推進した村長と郡長」(大野、安生)、③「谷中村の強制破壊時に対峙した警察の責任者と抗議する

『足尾鉍毒事件 一人ひとりの谷中村』

永瀬一哉・著

揺籃社・発行 2500円+税

A5判・336ページ

※本書をお求めの際は、お近くの書店か、当誌編集部までどうぞ。

BOOK REVIEW —八王子の自費出版本を紹介—

※このコーナーで紹介する自費出版本を募集しています。紹介してほしい本がありましたら、ご一報を。

由木地域を主なフィールドとして活動してきた「多摩丘陵の自然を守る会」が40年の節目に刊行した記念誌。市内でも特に開発による大きな変貌を遂げた由木地域の中にあって、雑木林の保全や谷戸田の復活に向けた活動、定期的な植物のモニタリング調査、自然観察会などを行うことで、地域の自然を守り続けてきました。活動のようすを掲載してきた会報の記事なども収録し、会が向き合った40年という歴史の重みを実感できます。ふだん何気なく目にする地域の自然が、こうした地道な活動によって守られているのだと気づかされる1冊です。



守っていききたい多摩丘陵の自然
— 創立40周年を迎えて —

多摩丘陵の自然を守る会・編
★私家版
★A4判、132ページ

※本書は私家版です。お求めの際は、当誌編集部までお問い合わせください。

「八王子子ども文庫連絡会」は1972年に産声を上げました（80年に連絡協議会に改名）。本書には50年分の活動記録がぎっしりと詰まっています。読み聞かせや「子どもとしゃかんまつり」といった子ども向けのイベントはもちろん、「子どもの本を読む会」のように大人が参加する講座の開催にも意欲的に取り組んできました。その道のりは常に予算、時間、人員の確保に迫られる日々でもあり、平坦ではありませんでしたが、2014年の文部科学大臣表彰として結実します。子ども文庫のある町って素敵だなと思わせてくれる優しい記念誌です。



芽ぶき 第7号 — 八王子子ども文庫連絡協議会50周年記念誌 —

八王子子ども文庫連絡協議会・編
★私家版
★A4判、52ページ

※本書は私家版です。お求めの際は、当誌編集部までお問い合わせください。

次号予告

「多摩ニュータウン」(仮)

八王子市、町田市、多摩市、稲城市にまたがって広がる多摩ニュータウン。1975年に建設が始まった八王子市では、特に由木地域の開発が進み、大きく変貌していきました。50年経ったいま、改めてその開発を振り返るとともに、いま多摩ニュータウンに向き合っている人びとを取材します。情報募集中！

第59号(新風号)は
1月1日発行予定



広告募集中！

「はちとび58号」は9,000部を発行、右記の場所に配布いたします。八王子市民にアピールしたい商品やサービスの広告にピッタリ。是非、協賛ください。

提携店募集中！

お客さんとのコミュニケーションツールにしたり、待ち時間の合間に雑誌感覚で読んでもらったりと、利用方法はさまざま。「はちとび」を新サービスとしてご活用ください。

お問い合わせはこちら

揺籃社(清水工房内)
はちとび編集部

TEL (620) 2615
FAX (620) 2616
E-mail info@simizukobo.com

「はちとび」の置いてあるところ

公共施設

八王子観光コンベンション協会
八王子商工会議所
八王子市郷土資料館
八王子市中央図書館
八王子市川口図書館
八王子市南大沢図書館
八王子市生涯学習センター図書館
八王子市絹の道資料館
八王子市役所産業振興部
八王子市役所スポーツ振興課
道の駅「八王子滝山」
サイエンスドーム八王子
八王子クリエイトホール
八王子市学園都市センター
八王子市民活動支援センター
八王子子ども家庭支援センター
八王子市芸術文化会館いちょうホール
八王子市教育センター
八王子市南大沢事務所
八王子市南大沢文化会館
大学セミナーハウス
長池公園自然館
高尾599ミュージアム
タヤけ小やけふれあいの里
市内各市民センター

お店・企業・学校

アート八王子
アクサ生命
御赤坂商店
御菓子司 旭苑
香妻寿し
アメニティーライフ八王子
街荒物加島屋
小俣タンススタジオ
café de la poste
cafe rin
ギャラリー・スペースことのは
京嘴楼
くまざわ書店
くまざわ書店イトヨーカドー店
くまざわ書店西八王子店
㈱クラブS保険サービス
グループホームびおら
桑の実幼稚園
敬愛保育園
啓文堂高尾店
工学院大学
小谷野紙店
街崎玉屋本店
和食 坂福
坂本クリニック・坂本医院

JA八王子ふれあい市場
シミズパーク24
ジョイステージ八王子
信松院
スマイルこどもクリニック
せいがの森保育園
セブンイレブン八王子北口店
創価大学
高尾の森わくわくビレッジ
拓殖大学
そば・うどん 玉川亭
たましん散田店
多摩美術大学
東京家政学院大学
東京工業高等専門学校
東京純心大学
東京造形大学
東京都立大学
東京薬科大学
とみりえ
中野屋商店
㈱日住
ハーモニーネット
はちおうじみずき通り整体院
はちねこ！カフェ
八王子エルシィ
八王子学園八王子高等学校

八王子中央自動車学校
八王子消化器病院
㈱富士屋
ふもとや
Coffee Bricks
ベネック
法政大学
まちの駅 八王子CHITOSEYA
松姫本店
街峰尾豆腐店
みやま大樹の苑
もくもくランド
山梨中央銀行八王子支店
㈱山六
有隣堂 CELEO 八王子店
竜泉寺の湯

その他団体など

サイバーシルクロード八王子
八王子法人会
八王子市医師会
八王子市職員等事業本部
八王子自治研究センター
八王子センター元気
八王子いちょう祭り祭典委員会
墨のアトリエ墨童舎
はちとびサポーターの会